

	従前ページ数	全体構成比	P800時の単純配分	(参考)	協議結果	(参考)
				委員長案		従前検討(H28)における目次構成(案)
原始・古代(考古)	350	26%	207	200	200	第1章 旧石器
						第1節 遺跡の発掘調査
						・火山の噴火と関東ローム層
						・調査の方法－確認調査・本調査－
						第2節 石器の製作と使用
						・石材の獲得
						・石器の製作
						・石器の種類と機能
						第3節 暮らしの基本－人と自然のかかわり－
						・ヒトと自然
						・暮らしの基本
						第4節 柏市の旧石器時代の特質
						・地形と遺跡分布
						・石材消費地のあり方
						・特徴的な遺構・遺物
						・石器の移り変わり
						第2章 縄文時代
						第1節 旧石器から縄文時代へ
						第2節 縄文海進
						第3節 縄文文化の最盛期
						第4節 縄文文化の終焉
						第3章 弥生時代
						第1節 縄文から弥生へ
						新しい文化の到来 稲作の伝播・環濠集落・金属器
						第2節 柏市の弥生文化
						市内の遺跡から見た柏市の弥生時代の特質 笹原遺跡・中馬場遺跡・狸穴遺跡など
						第4章 古墳時代
						第1節 邪馬台国時代の柏－古墳時代の胎動－
						方形環濠と前方後円墳の出現 戸張一番割遺跡・呼塚遺跡・山田台遺跡
						第2節 柏市の古墳時代
						・前期古墳
						北ノ作1号・2号墳・大井浅間古墳
						・中期古墳
						弁天古墳
						・後期古墳
						花野井大塚古墳・船戸古墳群 他
						第3節 集落の展開
						第4節 手賀沼沿岸地域の古墳の画期
						第1章 古代
						第1節 下総国の成立
第2節 倉麻郡意布郷戸籍						
第3節 防人						
第4節 平将門の乱						
第5節 平忠常の乱						
第2章 鎌倉						
第1節 相馬御厨						
第2節 相馬氏						
第3章 南北朝・室町						
第1節 南北朝の内乱と相馬氏						
第2節 鎌倉府の確立						
第3節 相馬御厨をめぐる訴訟						
第4章 戦国						
第1節 太田道灌と境根原合戦						
第2節 原氏						
第3節 高城氏						
第4節 戸張氏						
第5節 匝瑳氏						
第6節 小田原北条氏の進出						
第7節 小田原合戦						
第5章 中世社会						
第1節 「本土寺過去帳」にみる市域						
第2節 中世城館跡						
第3節 中世石造物						
古代・中世(文献)	250	19%	148	140	140	

	従前ページ数	全体構成比	P800時の単純配分	(参考)	協議結果	(参考)
				委員長案		従前検討(H28)における目次構成(案)
近世	300	22%	178	170	170	第1章 村の近世
						第1節 村の近世
						第2節 村の領主たち
						第3節 田中藩本多氏の地方支配
						第4節 本多氏の元和検知
						第2章 村の暮らしと信仰・文化
						第1節 人口と家族
						第2節 農業
						第3節 村組織
						第4節 村中の結びつき
						第5節 村での揉め事
						第6節 農間渡世
						第7節 飢饉とお救い
						第8節 娯楽と旅
						第9節 村びとの信仰
						第3章 手賀沼の開発と沼稼ぎ
						第1節 利根川改流
						第2節 寛文期の新田開発
						第3節 享保期の新田開発
						第4節 天明期以降の開発計画
						第5節 水害と排水
						第6節 手賀沼の漁獵
						第7節 手賀沼の鳥獵
						第4章 村の交通
						第1節 水戸街道
						第2節 鮮魚街道
						第3節 手賀沼の舟運
						第4節 年貢を運ぶ道
						第5章 牧と鷹場の村
						第1節 野付村の暮らし
						第2節 小金牧の開発
						第3節 水戸藩鷹場の暮らし
						第6章 領主財政の窮乏化と村秩序の動揺
						第1節 田中藩の財政窮乏
						第2節 旗本松前氏の財政窮乏
第3節 村社会の混乱						
第7章 芳野金陵とその時代						
第1節 芳野金陵の活動						
第2節 海防への関心						
第3節 社会の混乱						
第4節 維新を迎えて						
近・現代 (内、民俗分野としてP1350案ではP40(構成比3%)含む、全P800換算だとP24相当)	400	30%	237	230	230	第1章 近代の黎明(明治期)
						第1節 支配と行政区の変遷
						第2節 風早村・手賀村の成立
						第3節 産業と交通・運輸
						第4節 社会と生活
						第5節 明治の戦争と地域
						第6節 教育
						第2章 村政の展開と戦争(大正期、昭和戦前期)
						第1節 村政史料からみた村
						第2節 戦時体制への傾斜
						第3節 産業と交通
						第4節 昭和恐慌から戦時下の産業
						第5節 社会と生活
						第6節 生活文化の向上とゆかりの人々
						第7節 軍と「銃後」
						第8節 教育
						第3章 復興と変貌(昭和戦後期・平成期)
						第1節 行財政と町村合併
						第2節 沼南村から沼南町、柏市編入
						第3節 産業・経済・交通
						第4節 新しい文化と生活
						第5節 基地の戦後
						第6節 教育
						第4章 手賀沼
						第1節 漁業・鳥獵と渡船
						第2節 近代の洪水と干拓計画
						第3節 戦後の干拓
民俗					30	民俗：鳥ビシヤ等
口絵・統計資料等	50	4%	30	30	30	(備考)[1] 明治期の「小金牧・佐倉牧の開墾」は、近世の中で中村勝氏が執筆
合計	1350	100%	800	770	800	[2] 手賀沼の「明治6年の絵図、排水と火樋」は、近世で中村勝氏が執筆。